

同一種目における個人戦と団体戦に影響を与える選手の性格的特性 Personalities influence for the performance of individual/team competition in same sports

1K10C397-2 真所美莉

指導教員 主査 吉永武史 先生 副査 関一誠 先生

【目的】

本研究では、井上の研究(2009)をもとに、フェンシング競技の同一種目における個人戦と団体戦が選手の性格特性によって与える影響を、フェンシングと同様な形式で試合を行う競技を対象として、比較しながら以下の4点について検討することを目的とする。第一に、個人戦と団体戦に得意または不得意が存在するか。第二に、個人戦と団体戦の得意・不得意の意識は本人にはあるか。第三に、個人戦が得意な選手の性格特性についてである。最後に、団体戦が得意な選手の性格特性についてである。

【方法】

本研究で対象となった全7部活動(合計136名)に対し、戦績と個人戦と団体戦の得意・不得意の有無を調査する質問や、自由記述を含めたアンケートを作成した。また、個人戦か団体戦を得意とする選手の性格特性を検討するために、「新性格検査」(柳井ほか, 1987, pp. 114-122)の理論に基づいて多面的特性を測定するための性格検査を引用し、130項目ある質問に対して、2択式の設問をした。

また、実際の戦績から個人戦を得意と判断した選手を「赤群」、団体戦を得意と判断した選手を「青群」、両方が得意と判断した選手を「黄群」、両方が不得意と判断した選手を「緑群」とし、性格の全12特性を色別に分けた。

【結果】

全12性質の特性の中で、赤群と青群については、社会的外交性、活動性、攻撃性については大きな差が出なかった。次に、共感性においては、赤群が青群よりも「共感性が高い」という結果が出た。進取性の項目では「進取性が高い」という割合で、青群が赤群より2倍近く高いという結果が出た。持久性の項目では、全体的に高いという結果が出た。規律性に関しては、対象者が体育会系であるにも関わらず、「規律性が低い」割合が赤・青群共々高かった。自己顕示性においては、青群ではどの高低レベルも約均等であるが、約過半数の赤群は、「自己顕示性が低い」という結果が出た。劣等感の項目では、赤群の方が「劣等感ない」という傾向にあった。

【考察】

共感性においては、青群の選手は団体戦の試合中に、個人戦のももとの性質がゆえに、団体戦であるにも関わらず、他の仲間の試合や結果には無頓着な可能性があると考ええる。

進取性の項目で青群の選手の割合が高く出たのは、仲間の助言を素直に聞き入れることができ、現状理解能力に長け、チームの勝利のために新たな施策を思考し続けることができるのが青群の選手ではないかと考えた。

持久性については、赤群が「持久性が低い」という割合が高い。これは、勿論勝つために試合をしている訳であるが、個人戦の時にはその選手が勝負を捨ててしまったり、うまくいかないことに対して投げやりになってしまったりということも私自身の経験上あった。つまり、気持ちの面で集中力が切れてしまい、結果として団体戦では勝てない、団体戦が不得意な選手が生まれているのではないかと考える。

規律性に関しては、「規律性が低い」青群の選手には、赤群よりも強い拘りを持つ選手や、固執した考え方をする選手が少なく、変化に富むプレーを期待できると考える。

自己顕示性については、アンケートの自由記述の項目に目を移してみると、赤群の選手は「人がみていると緊張する」という回答がある。それに対し、青群の選手の回答では「皆がみていてくれるから」という真逆の回答を得られた。つまり、青群の選手より、赤群の選手の方が人から受ける刺激に弱く、人にみられているところで応援されるよりも、「寡黙にプレーしたい選手」が多いのではないかと考えた。

劣等感の項目では、赤群の方が「劣等感がややない」と言える。つまり、自信家である可能性があると推測できる。それゆえ、他人に頼るという術を知らないのではないかと考えた。

【研究のまとめ】

第一に、個人戦と団体戦に得意または不得意が存在し、これらには不安や緊張などのストレスが内外あらゆる方向から加わっていると言える。

第二に、個人戦と団体戦の得意・不得意の意識については、選手の約7割は「意識がある」という結果から、選手個人が自分のイメージと異なったプレーをしている可能性がある選手は3割存在するということが明らかとなった。

第三に、個人戦を得意とする選手の性格特性としては、仲間の存在をプレッシャーと感じてしまい、思うようなプレーができない選手が多い。精神的な「逃げ道」を与えることで、のびのびとしたパフォーマンスを発揮できると考える。

最後に、団体戦を得意とする選手の性格特性は、チームのために必死に役割を果たすことができ、何よりも仲間の存在を力に変えられる。また、団体戦を楽しむことができる、個人の選手とは真逆な結果であるということが明らかとなった。